

T町に住んで

千葉 覚

生活ぶりも大分わかかってきた。種々の行事に

積極的に参加して早く町の生活に溶け込もう

と思うが、特に私の住む地区が催す行事とし

て正月十五日の「どんど焼き」、八月の夏祭

り、秋の運動会などが印象的である。この三

つの年中行事が節目となっていて、それぞれ

の地区内または各地区同士の親睦会が兼ねら

れている。楽しい時を過ごすのだが、しかし

——しかしである。なんと参加する人は限ら

れていて、少ないのである。集団で活動する

のには無関心な都会の生活に近づきつつある

のだろうか。と想ってよくよく観てみると、

どうも町全体がもともと行事には消極的であ

るようだ。古来の伝統的な年中行事において

さえ、その営みは消極的である。決して集団

行動を嫌うからというわけではなく、もともと

と年中行事には関心をあまり持たない風土であるのだろう。

年中行事には個人的なものもあれば集団で行うものもある。そのいづれにおいてもこの

T町での営みは淡泊である。

盂蘭盆は古来大切な行事として人々の生活

の中に浸透している。中国渡来の仏教行事が

平安末には庶民にまで広まり、そして祖霊信

仰にまで我が国では発展していく。この大切

な盆行事ですらこの町では消極的である。

私の故郷仙台では朝市がたち、多くの供物

飾り物が店頭に並ぶ。我が家では小さな梨・

茄子・胡瓜などを絹糸でつなぎ仏壇に飾りつ

け、蓮の葉に供物を並べて置いたものだ。盆

提燈の灯りと夏の夜の闇が幻想的な世界をつ

くりあげていた。祖霊信仰に基づいているに

神奈川県北部、野趣溢れるT町に転居し

てから二年が過ぎ、大分環境にも慣れてきた。

「郷に入りては郷に従う」の諺通り、新参者は

少し気を使う。人づきあいが東京で暮らして

いたよりは何かと大事になってきた。側を走

りぬけた車中にも気を配らなければならぬ。

まあ情味のある人が多いので、なんとかう

まくいっている。隣人さえろくに知らなかつ

た都会生活よりはましだろうと思う。自然は

豊富にある。四季折々の草花・樹木が目を楽し

ませてくれるし、何ととってもT湖の眺め

がよい。住宅情報誌の宣伝文句「自然溢れる

良環境」であることは確かだ（でもこれは都

会から遠く交通不便な地ということでもある

が）。

いろいろな人のおつきあいで町の人々の

いろいろな人のおつきあいで町の人々の

せよ日本各地ではそれぞれ特色ある行事がみられる。家内の実家長野県佐久では小さな山車を造って飾り付け、墓所まで祖霊を送迎する。子供達の戯かながら愉快な仕事である。

春の子祝の行事、秋の収穫祭の間にあり大切な節目となっているこの盆行事です。この下町ではこれといった特色もなく、淡白である。

でも考えてみるならば、古来の年中行事に無関心になり、その営みが消極的になってきているのは何もこの下町だけではなく、全国的な傾向にあると言えるであろう。一年の節目目に行なわれた行事が、現代人の生活のリズムにあわなくなつたのかもしれない。現代人の生活が忙しすぎるのかもしれない。それでもやはりこのような傾向は歓迎すべき状態ではない。我々の祖先がどのように生活し、どう文化を築いてきたか、どんな信仰を持っていたかを知る手掛かりがこの古来からの年中行事にある。それを理解することによってよりよい現代生活そして未来を考えることができるはずである。日本人は日本人として独特の物の考え方、暮らし方があるはずで、それに合った生活設計、生活環境を考えていくことにより、さらに豊かで安心の持てる生活、

未来が約束されるのではないかと思われる。古来からの年中行事を守っていくのにはこういう点においても深い意義がある。

それでは薄れていく行事に対してもう一度人々の生活にとりもどすにはどうすればよいか。私は次のようなことを提案したい。

まず第一に各行事における商業活動を盛んにこなつてもらうことである。前述した盆行事をみてもまだまだ盛んな所は日本各地にある。そしてそのいづれにも共通することは商いが盛んに行なわれている事だ。朝市にせよ、スーパーマーケットにせよ盆行事に関する物がどつと売られだされるのである。他の行事に關しても商店が企業が盛んに商売をしてみたい。企業にリードしてもらうのである。

個人的な行事になりつつある「雑祭り」や「七五三」などは言うまでもなく、公共団体が主催する成人式でさえ実は商売がからんでいるからこそ盛んなのである。

ただし企業にリードされればなしでは困る。行事が本来の意義を失い、あらゆる方向に向かつてしまつては元も子も無くなる。消費者が売りつけられた物をやみくもに買うのではなく余計な物を取り除き、本物を買う目を養う必要がある。本物指向と言われて久しいが本

物の本物指向がこれからは必要である。

次に学校教育に取り入れてほしいことである。幼稚園だけで終つてしまふのではなく、その年代に応じた年中行事の学び方があるはずである。

第三に、学校教育とも関連するが、朝日新聞に面白い記事が載っていた。「読者の声」の欄で学校五日制の是非を問うテーマ討論の中に、二十歳の学生の意見が載っていて、それに興味を持った。その内容を要約すると「土日の休みは欧米のまねごとで日本人にはなじまない。一般社会も率先して正月とか盆など日本人の風習や生活に合った休暇をまとめてとるのがよい」という意見である。私も賛成である。わざわざ土曜日を休日にする必要性はどこにもないと思われる。私はさらに一般化している古来の年中行事の日は全部休日にすればよいと思う。節分も雑祭りも七夕も中秋の名月の日も休日にすれば、休日はふえるし、改めて年中行事の意義も考える機会ともなり一石二鳥ではないか、と考えている。

下町のスローガンは「水源文化都市」である。このスローガン通り、他の町から笑われないように文化を守り、文化を築いていきたいものである。